

平成 21 年 5 月 28 日現在

研究種目：若手研究 (A)  
 研究期間：2006－2008  
 課題番号：18683004  
 研究課題名 (和文) ソーシャル・キャピタルと健康の関係性に関する実証的研究基盤の  
 確立とその展開の研究  
 研究課題名 (英文) Inquiry of the relationship between social capital and health  
 研究代表者 藤澤 由和 (FUJISAWA YOSHIKAZU)  
 静岡県立大学・経営情報学部・准教授  
 研究者番号 70387330

## 研究成果の概要：

本研究においては、「ソーシャル・キャピタル」と人々の健康との関連性に関する実証研究のためのデータの構築とそれに基づく多重レベル (Multi-level) の検討を可能とする統計手法を用いた実証的分析を試みることを目的とした。したがって、本研究目的の遂行にはおいては、以下の二つの課題について検討がなされたものである。すなわち、(1)「ソーシャル・キャピタル指標の妥当性、及び信頼性に関する検討」、(2)「上記の検討に基づくソーシャル・キャピタルの把握と検討との関連性の検証が可能となるデータ・セットの構築とそれらの検証」である。以上の研究活動を通して、ソーシャル・キャピタルの指標の妥当性、信頼性が検証されることによって、今後も同様の指標を用いた調査を実施することが可能となるとともに、従来、欧米諸国において展開されてきたソーシャル・キャピタル研究の、日本を含めたアジア諸国での新たな知見の提示に大きく寄与したものである。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2007年度	15,300,000	4,590,000	19,890,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	19,700,000	5,910,000	25,610,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：地域社会・村落・都市

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初においては、新たな健康観を指摘される流れの中で、人々の健康に影響を与える要因の一つとして社会的要因を重視する見方が非常に注目されるようになっていた。しかしながら、こうした社会的要因が

人々の健康に対してどのような影響を与えているかに関しては、未だ十分な知見が示されていない現状にあったものである。さらに、社会的要因に関しては、収入、教育、就労などの **Socio Economic Status** が、その主たる要因として注目を浴びていたものの、社会学

をはじめとする多くの社会科学分野において急速に関心の高まりが示されていたソーシャル・キャピタルという社会的要因と健康の関連性を検討する研究については、いまだ始まったばかりであった。

そこで本研究においては、社会的要因の中でも「ソーシャル・キャピタル」という要因に着目し、人々の健康との関連性を実証的に提示することを通して、従来、主として個人に焦点をおいて検討されてきた医療および健康政策を、社会的要因を組み込んだ、より広い視座から再構築することを本研究での全体的な構想として研究を開始したものである。

## 2. 研究の目的

上記の研究背景を踏まえて、本研究では、ソーシャル・キャピタルと健康との関連性に関する実証研究のためのデータの構築、それに基づくより適切な統計手法 (Multilevel Analysis) による分析を試みることを目的とした。したがって、本研究課題の遂行において具体的には、次の二つの課題について検討を行なったものである。

すなわち、(1)「ソーシャル・キャピタル指標の妥当性、及び信頼性に関する検討」、(2)「地域レベルのソーシャル・キャピタルを把握することが可能となるマイクロデータの収集に関する調査のプロトコルの作成と、全国調査の実施、(3)「データ分析と検証」である。

## 3. 研究の方法

### (1) ソーシャル・キャピタル指標の選定・調査票の作成

ソーシャル・キャピタルの指標作成においては、1. 研究代表者のこれまでの研究成果 (科学研究費補助金での研究成果)、2. 健康分野でのソーシャル・キャピタル研究の第一人者であるハーバード大学の Kawachi Ichiro 教授の研究グループとの議論、という手順によって決定したものである。

具体的には、上記の1. では、「健康分野におけるソーシャル・キャピタル指標の開発とその予備的検討 (平成 17-19 年度科学研究費：萌芽研究)」での知見であるソーシャル・キャピタル指標に関するデータベースに基づき、その後の文献レビューを通して指標の精緻化を試みたものである。そして、これらの研究成果に基づき、2. では Kawachi 教授の研究グループとの議論により、わが国のコンテキストを考慮した指標の選定を行なったものである。したがって、先行研究において有用と考えられる質問項目に加えて、独自に複数の質問項目を作成したものである。

そして、調査票の作成においては、上記のソーシャル・キャピタル指標に加えて、基本

属性 (性別、年齢、学歴、収入、教育歴、居住形態など)、健康関連 QOL 尺度である「SF-36」の下位尺度の「全体的健康」 (General Health) を用いたものである。

### (2) 調査対象地域と調査の実施

#### ① 東京調査

東京 23 区を母集団として、約 40 の町丁目を抽出し、対象町丁目への全数調査を実施したものである。なお、調査は、郵送調査法により実施し、調査票の回収については同封の返信用封筒により依頼を行なった。その結果、約 4,500 名より回答を得た。

#### ② 全国調査

日本全国を母集団として、約 210 町丁目を抽出し、対象町丁目への全数調査を実施したものである。なお、調査は、郵送調査法により実施し、調査票の回収については同封の返信用封筒により依頼を行なった。その結果、約 8,000 名より回答を得た。

### (3) データの分析

上記で得られたデータに基づき、町丁目の社会的要因であるソーシャル・キャピタルと個人の主観的健康との関連性について、エコロジカルレベル、マルチレベルの両者の視点に基づく検討を行なった。両者とも、個人の要因 (性別、年齢、収入、就業状態) を調整変数とし、地域の要因であるソーシャル・キャピタルが主観的健康どの程度の影響力を有しているか定量的な解明を行った。

以上の内容について、平成 18 年度～平成 20 年度の研究期間で実施をしたものである。

## 4. 研究成果

### ① 平成 18 年度

平成 18 年度における研究実施計画としては、ソーシャル・キャピタルの指標の選定、調査票の作成、および調査実施の準備を実施したものである。

具体的には、これまで研究代表者が系統的レビューを通して作成したソーシャル・キャピタルデータベースに基づき、その後の先行研究やハーバード大学の Ichiro Kawachi 氏らとの意見交換に基づきその指標の抽出と選定を行った。さらには、調査票の作成と関連をして、これらのソーシャル・キャピタルに関する指標と個人属性、社会経済的要因などの整合性を図ったものである。さらには、指標の構築においては、分析手法の観点からハーバード大学の SV Subramanian 博士と意見交換を行い、本研究の分析において用いるマルチレベル分析において適応可能な調査データのあり方についても明らかとなった。

サンプリング及び調査実施準備に関しては、地理情報の専門家との意見交換により、ソーシャル・キャピタルの概念に適応可能な地理的空間のサンプリング手法が明らかとなり、それらの専門家、及び今回調査を依頼する委託会社との打合せによりその方法の確立が図られた。具体的には、コスト面や現実可能性を考慮し、町丁目を対象としたサンプリングが最も有用であるとの結論に至ったものである。

## ②平成 19 年度

平成 19 年度の研究においては、平成 18 年度に実施したソーシャル・キャピタル指標について、地理的空間を十分に反映しうるものであるか否かに関して検討を行なった。すなわち、従来の欧米諸国において展開されてきた指標とわが国のコンテキストを加味したソーシャル・キャピタル指標を構築するとともに、日本人の「地域」という地理的範囲を検証しうる項目などから構成をしたものである。さらには、健康指標に関しては、主観的な健康指標と客観的な健康指標を網羅し、先行研究において示されてきた主とした主観的な側面によらない、新たな知見が今後、提示できるものと考えられた。

調査手法に関しては、平成 18 年度に分析において用いるマルチレベル分析の効率的、かつ効果的な適応が可能となりうるサンプリング方法を開発し、その展開を東京調査、及び全国調査において試みた。さらに、こうしたサンプリング手法は、調査実施コストの低減においても有用であることが明らかになったものである。

こうした研究活動を通して、ソーシャル・キャピタルと個人の健康の関連性の検証において必要となる調査データを収集することが可能となり、次年度以降の研究においては、両者の具体的な関係性に関してマルチレベル分析を用いた実証的な検討を進め、今後の新たな健康政策への提案が可能となったものである。

## ③平成 20 年度

平成 20 年度においては、ソーシャル・キャピタルと人々の健康との関連性に関する実証研究のためのデータの構築とそれに基づく多重レベルの検討を可能とする統計手法を用いた実証的分析を試みたものである。具体的には、前年度までの研究において構築した調査データを用いて、マルチレベル分析によりその関係性について検討を行なったものである。すなわち、個人の要因（性、年齢、収入、教育歴）を調整したうえで、地域レベル要因であるソーシャル・キャピタルが個人レベルの全体的健康感に対してどの程度影響を及ぼしているのかについて明らか

にした。

また、調査データの広く一般への学術提供を目指すための準備を実施した。具体的には

- (1) 個人が特定されない形に処理を行い、
- (2) 諸変数のデータのコーディングをシステマティックに記録したコードブックを作成するとともに、(3) 全レコードの全カラムについてデータ・クリーニングを試みたものである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

- ① Hamano, T., Onodera, R., and Fujisawa, Y. Research on promotion of public security using geographic information system. The Niigata Journal of Health and Welfare. 8 (1) . 2009. 34-39.
- ② 永富聡、藤澤由和. ソーシャル・キャピタルの地域特性—近畿圏における住民参加のポテンシャルと地域政策—。経営と情報. 21 (2) . 2009. 1-13.
- ③ Fujisawa, Y., Hamano, T., and Takegawa, S. Social capital and perceived health in Japan: An ecological and multilevel analysis. Social Science & Medicine. In printing. 2008 (accepted in the publication)
- ④ 小野寺良二、濱野強、藤澤由和. 保健医療分野における地理情報システムの展開. 新潟医療福祉学会誌. 8 (2) . 2008. 42-45.
- ⑤ 濱野強、藤澤由和. ソーシャル・キャピタル概念に基づく社会疫学研究の健康政策への展開. 新潟医療福祉学会誌. 8 (2) . 2008. 58-63.
- ⑥ 藤澤由和、濱野強、小藪明生. ソーシャル・キャピタル概念の適応領域とその把握に関する研究. 新潟医療福祉学会誌. 7 (1) . 2007. 26-32.
- ⑦ 濱野強、藤澤由和. ソーシャル・キャピタル研究へのマルチレベル分析の適応可能性. 新潟医療福祉学会誌. 7 (1) . 2007. 33-37.
- ⑧ 小藪明生、濱野強、藤澤由和. ソーシャル・キャピタル研究における一般的信頼の位置づけ. 7 (1) . 2007. 60-63.

- ⑨ 藤澤由和、濱野強、小藪明生. 地区単位のソーシャル・キャピタルが主観的健康感に及ぼす影響厚生学の指標. 54 (2). 2007. 18-23.
- ⑩ 小藪明生、濱野強、藤澤由和. ソーシャル・キャピタルにおける一般的信頼感の規定要因に関する検討. 新潟医療福祉学会誌. 6(2). 2006. 48-55.
- ⑪ 米林喜男、濱野強、小藪明生、藤澤由和. ソーシャル・キャピタル研究における調査データの二次利用に関する検討. 新潟医療福祉学会誌. 6(2). 2006. 70-78.

[学会発表] (計 2 件)

- ① 濱野強、小藪明生、小野寺良二、藤澤由和. マルチレベル分析によるソーシャル・キャピタルと主観的健康感の関連性の検討. 第7回新潟医療福祉学会学術集会抄録集. 53 頁. 2007.
- ② 濱野強、米林喜男、小野寺良二、藤澤由和. ソーシャル・キャピタル研究における調査データと分析手法に関する検討. 第7回新潟医療福祉学会学術集会抄録集. 54 頁. 2007.

[図書] (計 3 件)

- ① 藤澤由和, 他, 監訳. ソーシャル・キャピタルと健康. 日本評論社. 2008.
- ② 濱野強. 保健医療福祉分野におけるマルチレベル分析の意義と可能性. 保健・医療・福祉の研究・教育・実践. 東信堂. 2007. 276-286.
- ③ 藤澤由和. ソーシャル・キャピタルと保健医療福祉. 保健・医療・福祉の研究・教育・実践. 東信堂. 2007. 287-300.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤澤 由和 (静岡県立大学・経営情報学部・准教授 研究者番号 70387330)

### (2) 研究分担者

なし (若手研究 A) のため

### (3) 連携研究者

**Kawachi Ichiro**  
ハーバード大学

**Sankaranarayanan Venkata Subramanian**  
ハーバード大学

**Eun Woo Nam**  
延世大学

中谷 友樹 (NAKAYA TOMOKI)  
立命館大学

園田 恭一 (SONODA KYOICHI)  
新潟医療福祉大学

伊集 守直 (IJU MORINAO)  
静岡県立大学

斉藤 和己 (SAITO KAZUMI)  
静岡県立大学

武藤 伸明 (MUTO NOBUAKI)  
静岡県立大学

小藪 明生 (KOYABU AKIO)  
早稲田大学

石田 祐 (ISHIDA YU)  
ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

永富 聡 (NAGATOMI SATOSHI)  
日本総合研究所

濱野 強 (HAMANO TSUYOSHI)  
島根大学